

新公立相馬総合病院改革プラン評価委員会(令和2年度分評価用) 質問等回答

1: 質問事項

評価委員皆様からの質問事項はありませんでした。

2: 意見・要望事項

意見・要望事項	<p>県、市、町からの助成金により何とか経営可能な運営状態の中、新型コロナという先の見えない医療危機も加わり、正に深刻かと思えます。</p> <p>一般企業であれば、合理化やリストラなどの対策を検討することも考えられますが、公立病院の立場や使命からは、それも困難かと思慮します。</p> <p>引き続き、様々な観点から改革を推進願います。</p>
回答	<p>当院の使命と役割は、地域の皆様が必要とする医療を安定的かつ継続的に提供することであると認識しております。</p> <p>しかし、当院の現在の財政状況は極めて厳しい状況にあり、今後も良質な医療を継続的に提供するためには、健全な経営体質への転換が不可欠であることから、令和3年度以降も経営改善計画を策定する等継続して見直しを行い、当地域の基幹病院としての役割が果たせるよう努力して参りたいと考えております。</p>

意見・要望事項	<p>医師不足は、県内、特に浜通りの共通課題であると思えます。費用負担を伴いますが、奨学生の制度を設け、医科大に進学してもらう方法等とれないでしょうか。</p>
回答	<p>医学生に対する奨学金貸与制度は、常勤医師確保のひとつの手段であると考えますが、奨学金貸与制度を有する他病院の状況を確認しますと、常勤医師確保の即効薬とはなっていないようであります。</p> <p>福島県立医科大学には十分な奨学金貸与制度がすでにあり、県立医大の学生になれば、当地域出身の学生でも、その制度を活用することができます。また、東北医科薬科大学など一部の私立医大でも福島県の地域枠で活用できる奨学金制度を設けております。かなり好条件の奨学金制度もあり、現在の医学部の状況では奨学金制度を病院独自に設けましても効果は薄いと考えております。</p> <p>当院では、常勤医師の確保の一助とすべく、平成26年度より初期研修医の受け入れを実施しております。まず、相馬地域の医療を知ってもらい、そして地域の魅力を肌で感じとってもらうことこそが常勤医師確保の最も早道と取り組んで参りました。令和3年度までに14名の初期研修医を受け入れ、うち</p>

	<p>5名が福島県立医科大学の後期研修医として入局し、うち1名は3年6ヶ月当院にて勤務しておりました。</p> <p>従いまして、当院といたしましては、従来どおり初期研修医の受け入れを継続し、ひとりでも多く当地域で働いても良いと考えていただけるように努力する所存です。従来よりさらに福島県立医科大学、東北大学医学部の各講座等関係機関への働きかけを強め、常勤医師の確保に努めて参ります。</p> <p>また、地元出身の医師は地元病院の定着率が高いことを鑑み、地元高校への働きかけも継続するつもりです。</p>
--	---

<p>意見・要望 事 項</p>	<p>相馬地域も高齢化が進み、病院の患者も急性期の患者だけでなく回復期の患者も多くなると思うので、介護ではないが途中の方も預かれる方法の検討も必要でないでしょうか。</p>
<p>回 答</p>	<p>令和2年国勢調査確定値における構成市町の高齢化率は、相馬市31.2%、新地町32.9%で、高齢化率は、前回調査時に比較し、それぞれ上昇しております。このような状況にあつて、今後、ますます介護需要が高まることが懸念されます。</p> <p>当院は、急性期疾患に対応する病院ではありますが、退院患者の介護予防を図るため、令和元年9月一般病床のうち8床を「地域包括ケア病床」に転用し、治療は終了したもののもう少し経過観察が必要、在宅復帰に不安がある、さらなるリハビリを必要とする患者さんを対象に運用しております。この病床は介護支援のいわゆる「レスパイト入院」の受け入れも可能であり、回復期の患者家族にとって十分な支えとなる方法であると考えます。</p> <p>当院といたしましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が終息した時点において、「地域包括ケア病床」の増床を含め、増加が予想される介護ニーズに対し、当院としてどのような対応ができるか、検討を進めたいと考えております。</p>